

学 園 報

No.52

富山国際学園 URL <http://www.tii.ac.jp/> 富山短期大学付属みどり野幼稚園 URL <https://www.toyama-c.ac.jp/info/midorino/>
 富山国際大学 URL <https://www.tuins.ac.jp/> 社会福祉法人富山国際学園福祉会にながわ保育園 URL <https://www.tkfukushikai.or.jp/ninagawa/>
 富山短期大学 URL <https://www.toyama-c.ac.jp/> 社会福祉法人富山国際学園福祉会西田地方保育園 URL <https://www.tkfukushikai.or.jp/nishiden-hoiku/>
 富山国際大学付属高等学校 URL <https://www.tuins-h.ed.jp/>

●学校法人富山国際学園

〒930-0193 富山市願海寺水口444
 TEL/076-436-5139
 FAX/076-436-5444

アイデンティティの尊重



理事長
 金岡 克己

ロシアによるウクライナ侵攻から早や1年が経過しました。この侵攻は遠い日本にも大きな影響を及ぼしています。ウクライナはヨーロッパ有数の穀倉地帯です。戦火により、小麦やひまわりの生産・輸出が停滞し、世界的に穀物、食用油の価格が急騰しました。また、ロシア依存脱却の動きがエネルギー需給に混乱を招き、電気料金、ガス料金の大幅な値上げにつながっています。

ウクライナの人口は4300万人、ロシアは1億4500万人です。さらにロシアは世界第2位の軍事大国、核保有国です。この国力、軍事力の差から、当初わずか72時間でウクライナの首都キーウが陥落すると予想されていました。また、抵抗は無駄で、市民の命を守るため降伏すべしというマスコミ人が見受けられました。確かに、勝ち目のない戦いに見えましたが、なぜウクライナは1年以上戦い続けているのでしょうか。

理由は、祖国を守り自主独立を維持することを国民が選択したからです。大国への隷属を潔しとしない、自らのアイデンティティを懸けた戦いです。

アイデンティティは自己同一性、自分が自分であることなどと訳されます。個人の場合は、家族、地域、職業、夢などが自己を規定する要素でしょう。個人、集団、組織、国家などに広く適用される概念です。

アイデンティティは時として、人の意識の深層に潜み、突如その姿を現すことがあります。一例は学校の統廃合問題です。教育を提供する側の論理を超え、様々な議論が展開されます。学校の存在が地域のアイデンティティと深く結びついている証でしょう。

多様性が重視される時代を迎え、個人のアイデンティティの尊重が求められています。同時に、組織、集団のアイデンティティを明らかにせよとの社会の要請が強まっています。教育でいえば、大学のみならず高校にもスクールポリシーの制定が要求されています。ポリシーの元となるのはミッション、その学校の社会

的な存在意義です。

私立の学校法人の設立財源は寄付で賄われます。寄付を募るため、設立の趣旨、創立の理念が明確です。税金による公立学校はどうでしょう。歴史の古い一部学校を除き、必ずしも具体的ではないと推察されます。

どのようにミッションを決めるのかは難しい問題です。伝統はどう作られるのかと同義に近いからです。責任者が代わるたび変えるのも不自然です。また、各公立高校が独自色を強めれば、学区制との整合性も問われることになるでしょう。

富山国際学園には、1963年富山女子短期大学創立時の設立趣意書、建学の理念が残されています。当時、富山県内には2年制課程が県立大谷技術短期大学数理科40名のみであり、女子短期大学設立が求められていること、そして、高い知性と広い教養と健全にして、豊かな個性を持った女性を育成して、社会福祉と家庭生活の向上とに貢献することです。

この理念は、地域貢献を掲げる富山国際学園のバックボーンであり、学園各校、社会福祉法人富山国際学園福祉会に受け継がれています。また、1964年発表の校歌は、この理念に沿い、五・七調の大和ことばで自然の心象と知・情を大らかに詠いあげています。

少子化による影響が少しずつそして確実に顕在化し、将来に対する漠然とした不安が高まりを見せています。アイデンティティの喪失とは、自らの存在意義を見失うことであり、将来への希望を失うことにつながります。

改めて、関係者の知恵と努力を結集し、富山国際学園のアイデンティティを確かなものとしてまいりましょう。

CONTENTS

- | | | |
|----------------------------|----------------------|-------------------------------|
| □アイデンティティの尊重 | 理事長 金岡 克己 … 1 | □特集3 富山短期大学開学60周年記念事業について … 4 |
| □特集1 学長退任のご挨拶～学園と共に39年～ | 富山短期大学 前学長 宮田 伸朗 … 2 | □令和5年度入試状況・令和4年度進路状況等 …… 5 |
| □特集2 学長就任のご挨拶～60歳からの再スタート～ | 富山短期大学 学長 高木 利久 … 3 | □学園退職者・新任者一覧 …… 5 |
| | | □令和5年度予算概要 …… 6～7 |
| | | □学園NEWS …… 8 |

学長退任のご挨拶 ～学園と共に39年～

富山短期大学 前学長 宮田 伸朗



富山短大への里帰り

2016(平成28)年秋のある日、富山短大学長への就任を暗示されました。子ども育成学部を立上げて8年目、富山国際大学の評価も次第に高まり、年度末で退職をと考えていた矢先でした。

短大は創立50周年を経て経営も順調、短大への里帰りには、学生・教職員の命運を背負う覚悟、短大の持続的発展に向けた強い意思の再起動が必要でした。

学園報の就任あいさつには、創立60周年に向かうリレーゾーンにあって、「伝統と実績」のリノベーションと、近隣大学の改組・改革急展開の中で、「周回遅れ」からの脱却が求められていると書きました。

専任学長としての課題

6年間の任期前半は、AP事業の定着・総括と発展、教職協働・合意形成による改善・改革、短大将来構想の策定、任期後半では、新型コロナウイルス対策、学生確保対策、懸案の短大Ⅱ期工事、60周年記念事業準備など重い課題の連続でした。

また任期を通じて、キャンパスアメニティ向上、願海寺新駅設置にも意を用いてきました。24年ぶりの専任学長として戸惑うことも少なくなく、必ずしも思いどおりの結果を得ることはできませんでしたが、お蔭様でどうにか任期を全うすることができました。教職員をはじめ、同窓会、後援会、地域の皆様方のご協力に、心から感謝と御礼を申し上げます。

改善・改革への取り組み

任期前半では、教職員の負担感軽減、教育研究の質向上、魅力ある短大への改革が問われていました。AP事業「学修成果の可視化」は全国的にも高く評価され、学生の学ぶ意欲の向上、授業改善と教育課程改革への貴重なステップでした。各部局・階層を挙げて策定した短大将来構想は、学園将来構想検討への布石となり、学園中期事業計画へとつながりました。

後半では、コロナ禍で短大の基本機能を維持する「覚悟と工夫」が課題でした。オンライン授業や広報、感染に敏感な病院・施設・事業所での実習、行事や

学生生活の制限に苦慮しつつ、感染防止とニューノーマルを模索する日々でした。

学生の不安や戸惑い、苦情への対応、学生と教員の信頼関係の再構築は、痛みを伴う重い課題でした。それはまた、短大としての自浄能力向上への試練でもありました。安全安心で快適な学生生活環境は、安川同窓会長様と川島後援会長様の支援ご理解を得て、60周年記念事業の一環として整備されました。DXに対応する教室環境、懸案のノートPCによるデータサイエンス教育の開始も緒に就きました。

2021(令和3)年度の認証評価(大学・短期大学基準協会)では、教育の質保障、地域連携や学生支援活動などが評価され、「適格」との評価を受けました。

新しい進化への確信

2023(令和5)年度の大規模な入学定員割れは、最重要課題として危機意識も高まりました。教育の質と量は表裏一体の課題であり、短大は真の教育力が問われる正念場、変化に適應できるものだけが生き残る時代に直面しています。

学生には贈る言葉として「苦難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を生む」(聖書)を、教職員の皆さんには「教えるとは希望を語ること」(ルイ・アラゴン)を唱えてきました。校歌の一節「清らなる知性、まことある心」を胸に、地方短大の矜持を堅持しつつ、原則的かつ柔軟で大胆なチャレンジにより、短大は新しい進化を遂げられることと確信しています。

地域人材育成の39年

1984(昭和59)年、初代近藤学長から辞令を頂き富山女子短大講師として入職以来、学園と共に39年。幼児教育学科では学生ボランティア活動支援や保育現場指導、福祉学科では創設学科長や文科省特色GP採択、大学では人文社会学部・地域学部兼任講師や子ども育成学部創設学部長など、学外では学協会の役員や他大学等の非常勤講師、区市町村・団体の委員や役員など、広く保育・教育・福祉・介護・保健医療の地域人材育成に関わることができた幸せな39年間でした。

退任後は短大名誉教授として、富山国際学園の持続的発展、地域の教育と福祉の向上に向けて、微力ながら何某かの貢献ができればと念じています。

学長就任のご挨拶～60歳からの再スタート～

富山短期大学 学長 高木 利久



本年2023年4月に富山短期大学の第6代学長に就任いたしました高木利久でございます。60年にも及ぶ長い歴史と伝統のある富山短期大学の学長に選出され、まことに光栄に存じますとともに、責任の重さに身の引き締まる思いでございます。

大変な重責ではございますが、全力を傾けて、富山短期大学の進化、発展に尽力いたしたいと考えております。私はまだ富山短期大学の状況や問題を完全には把握できてはおりませんが、当面、以下に述べます3つの課題に取り組みたいと考えております。どうかご支援ご協力のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

(1) 富山短期大学の魅力の発掘と強化

富山短期大学を取り巻く状況には大変厳しいものがあります。少子化はもちろんのこと、四年制の大学や首都圏や関西圏への進学指向が強まるなど、これは本学に限った話ではございませんが、強い逆風の中にあると言っても過言ではありません。しかしながら、社会が大きく変わっても本学が設立以来60年間連続と続いてきたこと、卒業生が様々な分野で多数活躍していらっしゃることを考えますと、社会の中で、とりわけ富山という地で本学が大きな存在意義を有してきたことは疑いようがないものと思います。私はこれまで短期大学という組織での勤務経験はありませんが、60年間積み上げてきた本学の価値、魅力を客観的な視点で掘り起こすことにより、本学の長所をさらに伸ばすような改善・改革を行いたいと考えております。苦しい時こそ知恵が出るし、出さないといけないと考えております。

(2) 学園内での連携強化による組織運営の効率化

世の中の課題は少子化だけではありません。SDGs、コンプライアンス、情報公開、個人情報保護、情報セキュリティ保全、働き方改革、ジェンダーフリー、地域貢献、など社会の一員としての大学が対応しないといけない問題もここ20年、30年で急速に増えてきております。また、学生に教えるべき内容もIT技術

をはじめとして多様化、高度化してきております。一言で申し上げて教職員が取り組まないといけない仕事は量的にも質的にも増加の一途です。本学の価値、魅力を最大限、発揮させるために、富山国際大学など同じ学園内の他機関との緊密な連携を図り、経営資源（人材、知識、ノウハウ、スペース、設備、など）の共有による大幅な効率化省力化を実現することが不可欠です。私は2019年7月より富山国際大学の学長を務めておりますので、その立場も活かして、この問題に取り組みたいと考えております。

(3) IT、AIの教育強化とスマートキャンパスの実現

組織運営の効率化を図るためにも、また、学生の教育やキャンパスライフの利便性向上のためにもITやAIの技術は欠かせません。私はこれまで生命科学分野のデジタルトランスフォーメーション推進の研究に従事してきましたので、その経験を活かして、本学園に赴任以来、IT教育の推進とキャンパスのデジタル化に積極的に取り組んできました。今後は、この活動を学園全体に広げて、富山短期大学でのIT教育をさらに強化するとともに、学園内のキャッシュレス化や各種書類や届出の電子化などスマートで環境に優しいキャンパスを実現すべく努力したいと考えております。いま話題のChatGPTなどの生成系AIは社会にこれまで以上に大きな変革をもたらしつつあります。このようなAI技術も積極的に導入して、未来志向の富山短期大学を作り上げて行きたいと考えております。

以上のような3つの取り組みを通して、富山短期大学の再活性化を図る所存です。繰り返しになりますが、本学は1963年に設立され、今年で60年の節目を迎えます。人間で言えば、還暦にあたるわけですが、人生100年時代の今日、もう40年どころか、次なる60年を見据えて、持続可能な教育研究機関にして行くための基盤を作りたいと考えております。60歳からの再スタートです。本学には2万人を超える輝かしい同窓生がいらっしゃいますので、それら諸先輩の方々のお力をお借りしながら、富山短期大学の再興をめざしたいと考えております。何卒よろしくお願いたします。

富山短期大学 開学60周年記念事業について



富山短期大学は、2023年に開学60周年を迎えました。
開学60周年記念事業について、その実施概要、状況を紹介いたします。

なお本事業は、富山短期大学同窓会（あやな会）ならびに富山短期大学後援会による寄付金を財源の一部として実施します。

1. 教育環境アメニティ向上事業

入学生及び在学生在が新しい環境で学生生活をスタートできるよう支援します。

- ① 学生生活環境の向上 A館、C館、D館トイレ改修
- ② 教育環境の整備 C、D館のエアコン設置及び更新
- ③ 情報教育環境の整備 C館教室ディスプレイ、プロジェクター整備、D館教室スクリーン整備



A館2階トイレ改修



D館エアコン更新



C館教室整備

2. 実績と魅力発信事業

富山短期大学の60年を振り返り、新しい10年に向けてさらなる発展をめざすとともに、富山短期大学の使命と特色を確認・共有し、強みと魅力を発信して地域での存在感を高めてまいります。

① 記念誌作成事業

富山短期大学開学60周年を記念して、開学50周年以降10年間の富山短期大学の歴史をコンパクトに纏めた記念誌の制作を予定しています。

② 資料展示室設置事業

富山短期大学構内に資料展示スペースを設け、学内外向けに展覧することにより、富山短期大学の歴史を振り返ることができるようにしてまいります。

③ 広告宣伝・発信事業

富山短期大学が開学60周年を迎えることを広く知っていただくため、新聞・テレビによる告知を予定しています。また、オープンキャンパス等の学内各種イベントでは横断幕を作成し、開学60周年を参加者に積極的にPRしてまいります。

令和5年度入試状況

大学

(令和5年4月5日現在)(単位:人)

学部	募集人員	志願者	受験者	合格者	入学者
現代社会	120	262	260	240	112
子ども育成	90	210	210	179	95
合計	210	472	470	419	207

短大

(令和5年4月5日現在)(単位:人)

学科	募集人員	志願者	受験者	合格者	入学者
食物栄養	80	95	95	94	64
幼児教育	80	110	110	110	87
経営情報	110	140	140	140	90
健康福祉	40	30	30	30	23
食物栄養専攻	15	9	9	9	9
合計	325	384	384	383	273

高校

(令和5年4月7日現在)(単位:人)

コース	募集人員	出願者	受験者	入学者
国際英語コース	2クラス	152	151	51
特進コース	3クラス	522	521	87
フロンティアコース	4クラス	488	484	159
合計	9クラス	1162	1156	297

令和5年度入園児童

幼稚園

(令和5年4月1日現在)(単位:人)

	男	女	合計
3歳児	14	9	23
4歳児	1	0	1
5歳児	0	0	0
合計	15	9	24

※新入園児のみ

令和4年度進路状況

(令和5年5月1日現在)(単位:人)

学部	卒業生	就職希望者	就職決定者	決定率(%)	進学者
現代社会	137	125	125	100	4
子ども育成	101	90	90	100	9
合計	238	215	215	100	13

(令和5年5月1日現在)(単位:人)

学科	卒業生	就職希望者	就職決定者	決定率(%)	進学者	研究生
食物栄養	87	85	85	100.0	1	
幼児教育	79	79	79	100.0	0	
経営情報	105	96	95	99.0	7	
健康福祉	25	23	23	100.0	2	
食物栄養専攻	15	3	3	100.0	0	
合計	311	286	285	99.7	10	13

※研究生のうち、1名は就職決定者を含む

(令和5年3月31日現在)(単位:人)

大学	合格	入学	短期大学	合格	入学	その他	合格	入学	卒業生
富山国際大学	23	15	富山短期大学	13	11	専修各種学校	45	41	210
国公立大学	11	10	公立短期大学	0	0	就職	10	10	
他の私立大学	167	98	他の私立短期大学	20	16	その他		9	
合計	201	123	合計	33	27	合計	55	60	

令和4年度卒園児童

(令和5年3月31日現在)(単位:人)

	男	女	合計
5歳児	18	12	30

◆退職者一覧(令和5年3月31日付)

- 〈大学〉堀江 英一(子ども育成学部 教授)
 ※令和4年8月31日付
 河野 信(現代社会学部 教授)
 久々湊浩子(事務部呉羽事務室 事務長)
 島口美智恵(教育研究部学務課入試担当 係長)
 水野 大輔(教育研究部学務課学生支援担当)
 ※令和4年4月10日付
- 〈短大〉宮田 伸朗(学長)
 梅本 恵(幼児教育学科 教授)
 稗苗智恵子(食物栄養学科 教授)
 高木 尚紘(食物栄養学科 講師)
 松本 圭朗(幼児教育学科 助教)
 藤井 隆(事務部庶務課 運転手兼校務助手)
 ※令和5年5月31日付
- 〈高校〉三浦 千之(副校長)
 松平 健二(地歴・公民 教諭)
 中山 良一(理科 教諭)
 高嶋 宏樹(理科 教諭)
 高橋あづさ(理科 教諭)
 濱辺 沢子(英語 教諭)
 小出 徳大(理科 教諭)

◆新任者一覧(令和5年4月1日付)

- 〈大学〉小森 隆(現代社会学部 教授)
 ※令和4年12月1日付
 石渡 華奈(現代社会学部 准教授)
 ※令和4年10月1日付
 越智 士郎(現代社会学部 准教授)
 湯澤 卓(子ども育成学部 講師)
- 〈短大〉四杉 昭康(幼児教育学科 教授)
 伊藤 陽子(食物栄養学科 准教授)
 奥野 勝太(健康福祉学科 准教授)
 日光 恵利(幼児教育学科 講師)
 藤井 隆(事務部庶務課 運転手兼校務助手)
 ※令和4年10月25日付
- 〈高校〉政二 弘佳(学生部学生支援課 主事)
 大塚 賢志(地歴・公民 教諭)
 上田 弘子(理科 教諭)
 清水 卓(英語 教諭)
 浅井 多聞(国語 講師)
 Darren Hamilton(英語 講師)
 ※令和4年10月1日付

令和5年度 予算概要

令和5年度の事業計画及び予算は、去る3月29日開催の評議員会・理事会において承認されました。

各校の主な事業計画及び予算の概要は以下のとおりです。

【事業計画】

【大学】

- ①教育の質保証の向上をめざし、アクションプランに基づく多様な取り組みを推進
- ②外部資金の積極的な獲得
- ③国際化教育及び情報教育の充実を図り、ITや5Gを活用したスマートキャンパス化を推進【現代社会学部】
- ④保育・教育・福祉の人材育成及び情報教育の推進を図り、現代社会学部と連携したスマートキャンパス化を推進【子ども育成学部】

- ⑤大学改革、新規事業、危機管理などへの効率的な対応を推進

【短大】

- ①開学60周年の伝統と実績を継承・革新し、魅力発信、教育環境アメニティを向上
- ②教育の質保証・向上のための教育改革
- ③地域連携や学生ボランティア活動を推進
- ④支援を要する学生への相談支援体制の充実
- ⑤各学科の教育の質の一層の向上に努め、地域産業と生活向上に貢献する人材育成を推進

【高校】

- ①国際化教育及びICT教育を推進
- ②きめ細かい学習指導の実施
- ③良好な教育サービスの提供のための教育環境整備

【幼稚園】

- ①幼稚園型認定こども園として、新たな幼児教育・保育ニーズに対応した取り組みを推進

資金収支予算書

令和5年4月1日から
令和6年3月31日まで (単位：千円)

	令和5年度 予算額	令和4年度 予算額	差 異	
収入の部	学生生徒等納付金収入	1,920,931	1,981,834	△ 60,903
	手数料収入	39,757	39,452	305
	寄付金収入	1,503	1,503	0
	補助金収入	615,447	599,541	15,906
	資産売却収入	1	1	0
	付随事業・収益事業収入	28,274	36,887	△ 8,613
	受取利息・配当金収入	2,320	2,320	0
	雑収入	36,312	75,246	△ 38,934
	借入金等収入	0	0	0
	前受金収入	451,630	454,555	△ 2,925
	その他の収入	121,279	80,365	40,914
	資金収入調整勘定	△ 506,970	△ 536,030	29,060
	前年度繰越支払資金	1,076,247	1,122,115	△ 45,868
	収入の部合計	3,786,731	3,857,789	△ 71,058
支出の部	人件費支出	1,639,017	1,718,728	△ 79,711
	教育研究経費支出	754,844	658,329	96,515
	管理経費支出	159,455	143,702	15,753
	借入金等利息支出	0	0	0
	借入金等返済支出	0	0	0
	施設関係支出	30,248	28,595	1,653
	設備関係支出	77,623	102,748	△ 25,125
	資産運用支出	4,512	4,512	0
	その他の支出	150,500	85,500	65,000
	[予備費]	15,500	15,500	0
	資金支出調整勘定	△ 107,000	△ 174,000	67,000
	次年度繰越支払資金	1,062,032	1,274,175	△ 212,143
	支出の部合計	3,786,731	3,857,789	△ 71,058

事業活動収支予算書

令和5年4月1日から
令和6年3月31日まで (単位：千円)

	科 目	令和5年度 予算額	令和4年度 予算額	差 異
教育活動収支	学生生徒等納付金	1,920,931	1,981,834	△ 60,903
	手数料	39,757	39,452	305
	寄付金	3,506	3,506	0
	経常費等補助金	615,447	599,541	15,906
	付随事業収入	28,274	36,887	△ 8,613
	雑収入	36,311	75,345	△ 39,034
	教育活動収入合計(1)	2,644,226	2,736,565	△ 92,339
	人件費	1,643,017	1,722,728	△ 79,711
	教育研究経費	1,072,844	998,174	74,670
	管理経費	164,254	147,251	17,003
徴収不能額等	2	2	0	
教育活動支出合計(2)	2,880,117	2,868,155	11,962	
教育活動収支差額(3)=(1)-(2)	△ 235,891	△ 131,590	△ 104,301	
教育活動外収支	受取利息・配当金	2,320	2,320	0
	その他の教育活動外収入	0	0	0
	教育活動外収入合計(4)	2,320	2,320	0
	借入金等利息	0	0	0
	その他の教育活動外支出	0	0	0
教育活動外支出合計(5)	0	0	0	
教育活動外収支差額(6)=(4)-(5)	2,320	2,320	0	
経常収支差額(7)=(3)+(6)	△ 233,571	△ 129,270	△ 104,301	
特別収支	資産売却差額	2	1	1
	その他の特別収入	3,603	3,603	0
	特別収入合計(8)	3,605	3,604	1
	資産処分差額	6,100	5,600	500
	その他の特別損失	1	1	0
特別支出合計(9)	6,101	5,601	500	
特別収支差額(10)=(8)-(9)	△ 2,496	△ 1,997	△ 499	
【予備費】(11)	15,500	15,500	0	
基本金組入前当年度収支差額(12)=(7)+(10)-(11)	△ 251,567	△ 146,767	△ 104,800	
基本金組入額合計(13)	6,059	△ 49,391	55,450	
当年度収支差額(14)=(12)+(13)	△ 245,508	△ 196,158	△ 49,350	
前年度繰越収支差額(15)	△ 2,478,644	△ 2,424,926	△ 53,718	
基本金取崩額(16)	0	0	0	
翌年度繰越収支差額(17)=(14)+(15)+(16)	△ 2,724,152	△ 2,621,084	△ 103,068	
(参考)				
事業活動収入合計(1)+(4)+(8)	2,650,151	2,742,489	△ 92,338	
事業活動支出合計(2)+(5)+(9)+(11)	2,901,718	2,889,256	12,462	

【事業活動収支予算】

事業活動収支予算において、収入では、学生生徒等納付金 61 百万円減、雑収入 39 百万円減などにより、事業活動収入計が 2,644 百万円（対前年度当初予算比 92 百万円減・3.4%減）となりました。

支出では、教育研究経費 75 百万円増、管理経費 17 百万円増などにより、事業活動支出合計が 2,880 百万円（同 12 百万円増・0.4%増）となりました。また、基本金組入額 6 百万円余りを差し引いた当年度収支差額は、245 百万円の赤字予算となりました。

【資金収支予算】

資金収支予算において、令和 4 年度の学園が行う諸活動に対応する収入として、学生生徒等納付金収入、補助金収入、付随事業・収益事業収入、令和 6 年度入学生の前受金収入、令和 4 年度末の未収入金等が計上されています。一方、支出として、人件費支出、

教育研究経費支出、管理経費支出、施設設備関係支出等が計上されています。その結果、令和 5 年度の諸活動に対するすべての収入・支出の資金として、3,787 百万円（同 71 百万円減・1.8%減）が見込まれています。

【学園の財務状況】

学園の財務状況は、単年度ベースでは、昨年に続き赤字予算となりました。

事業活動収入の中でも大学・短大において、学生生徒等納付金が前年度を下回ることを見込んだ予算となっているためです。本学園では、学生生徒等納付金と経常費等補助金が、収入の約 95% を占めています。従って、これらの予算を確実に確保しつつ、新たな収入源を確保すること、そして、支出予算の効率的かつ効果的な執行に努めなければなりません。

令和 5 年度部門別事業活動収支予算書

(単位：千円)

活動区分	科目	部 門	法 人	大 学	短 大	高 校	幼 稚 園	総 額
教育活動収支	収入業の活動	学生生徒等納付金	0	897,461	619,525	403,135	810	1,920,931
		手数料	0	15,483	11,944	12,300	30	39,757
		寄付金	1	1,502	3	1,000	1,000	3,506
		経常費等補助金	0	142,574	124,011	278,925	69,937	615,447
		付随事業収入	0	8,566	14,075	0	5,633	28,274
		雑収入	5,620	3,204	21,797	1,370	4,320	36,311
		教育活動収入合計(1)	5,620	1,068,790	791,355	696,730	81,730	2,644,226
	支出業の活動	人件費	34,421	595,132	525,344	426,312	61,808	1,643,017
		教育研究経費	36,803	408,613	379,836	205,059	42,533	1,072,844
		管理経費	11,560	66,595	60,117	24,947	1,035	164,254
徴収不能額等		0	1	1	0	0	2	
	教育活動支出合計(2)	82,784	1,070,341	965,298	656,318	105,376	2,880,117	
	教育活動収支差額(3)=(1)-(2)	△ 77,163	△ 1,551	△ 173,943	40,412	△ 23,646	△ 235,891	
教育活動外収支	収入業の活動	受取利息・配当金	2,020	200	100	0	0	2,320
		その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0	0
		教育活動外収入合計(4)	2,020	200	100	0	0	2,320
	支出業の活動	借入金等利息	0	0	0	0	0	0
		その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0	0
	教育活動外支出合計(5)	0	0	0	0	0	0	
	教育活動外収支差額(6)=(4)-(5)	2,020	200	100	0	0	2,320	
	経常収支差額(7)=(3)+(6)	△ 75,143	△ 1,351	△ 173,843	40,412	△ 23,646	△ 233,571	
特別収支	収入業の活動	資産売却差額	0	1	1	0	0	2
		その他の特別収入	0	1,000	1,003	1,000	600	3,603
		特別収入合計(8)	0	1,001	1,004	1,000	600	3,605
	支出業の活動	資産処分差額	0	2,500	3,000	600	0	6,100
		その他の特別損失	0	0	1	0	0	1
	特別支出合計(9)	0	2,500	3,001	600	0	6,101	
	特別収支差額(10)=(8)-(9)	0	△ 1,499	△ 1,997	400	600	△ 2,496	
	【予備費】(11)	2,000	5,000	5,000	3,000	500	15,500	
	基本金組入前当年度収支差額(12)=(7)+(10)-(11)	△ 77,143	△ 7,850	△ 180,840	37,812	△ 23,546	△ 251,567	
	基本金組入額合計(13)	83	4,446	736	962	△ 168	6,059	
	当年度収支差額(14)=(12)+(13)	△ 77,060	△ 3,404	△ 180,104	38,774	△ 23,714	△ 245,508	
	前年度繰越収支差額(15)	—	—	—	—	—	△ 2,478,644	
	基本金取崩額(16)	—	—	—	—	—	0	
	翌年度繰越収支差額(17)=(14)+(15)+(16)	—	—	—	—	—	△ 2,724,152	

(参考)

事業活動収入合計(1)+(4)+(8)	7,641	1,069,991	792,459	697,730	82,330	2,650,151
事業活動支出合計(2)+(5)+(9)+(11)	84,784	1,077,841	973,299	659,918	105,876	2,901,718

富山国際大学

富山国際大学SDGs宣言を公開しました



本学は2023年5月1日に、本学のSDGsへの取り組み方針を明確にしたSDGs宣言を公開しました。以下のURLに全文を掲載しておりますのでご参照ください。

<https://www.tuins.ac.jp/about/local/sdgs/>

国連でのSDGs採択から2年が経過した2017年12月の学内講演会を皮切りに、大学では少しずつSDGsの意識化に取り組んできておりましたが、全学活動として広げるには力不足の状況が続いておりました。しかしついには昨年度(2022年度)、大学の正式な組織としてSDGs推進委員会が設置されたことにより活動が本格化し、ようやくSDGs宣言に漕ぎつけたところです。

これまでも学生や教職員は、それぞれがさまざまな内容で主体的にSDGs活動に取り組んできておりました。しかしこれからはSDGsのフレームワークを再認識し、先進的活動を行っている附属高等学校をはじめとして短大や学園組織ともパートナーシップを組みながら、学生と教職員が一体となって主体的活動を進めることができるよう力を入れていく所存です。そして、すべての学生と教職員が生き生きとして学び働くことができる大学、SDGsのフレームワークに則った教育と研究の実施によって地域と国際社会の発展に貢献する大学をめざしていきます。

富山短期大学

AI教育対応の新規科目「人間と情報」の開講

本学も今年度から「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」への取り組みとして、全学科の1年生対象に必修の新規科目「人間と情報」を開講しました。この科目ではDX(デジタルトランスフォーメーション)の概念やその事例を学び、さらにオープンデータの活用とその分析・評価などの方法を遠隔型の講義で各自のパソコンを使いながら学ぶことで、短大においても四年制大学と同等のデータ・AI活用技術や知識を深めることができます。



全学科同時に遠隔で実施する必修科目の授業は初めてであり、コロナ禍におけるオンライン対応のみでなく、データの利活用や人工知能(AI)に関する基礎を学び、その知識を地域社会の課題解決へ活かす人材育成をめざします。

富山国際大学附属高等学校

新入生を迎えて



本校は2023年4月7日(金)に297名の新入生を迎え、入学式を挙行了しました。

仲井校長は式辞で、「英語とICTという2つのコミュニケーションツールを使いこなす力を身につけてほしい」と、英語で新入生に呼びかけました。金岡理事長からは、「多様性のある環境で、それぞれの個性を伸ばしてほしい」との激励がありました。そして、新入生代表の中田富士郎(なかたふじろう・富大附属中学校出身)さんが、「自己啓発能力を身につけ、真の国際人になるために、様々な活動に積極的にチャレンジしたい。友人もたくさん作りたい」と決意を述べました。

本校を選んでくれた生徒たちを国際人として最大限に成長させるため、教職員一同、力を尽くします。

富山短期大学附属みどり野幼稚園

幼稚園にお獅子が来たよ!

2023年4月8日(土)、幼稚園に願海寺・野々上地区の獅子舞がやってきました。コロナ禍で中止が続いたため、4年ぶりの獅子舞となりました。太鼓や笛の音が聞こえてくると、園児たちは目を輝かせてお獅子を迎えていました。目の前で舞う獅子はすごい迫力で、園児たちもひきこまれていきます。獅子と天狗の動きに「かっこいい」「獅子の口の動きがすごい」などの声が上がリ、素晴らしい表現力に自然と大きな拍手が起きました。

4年ぶりの獅子舞は、初めて見る園児も多く、「楽しかった」「また来年も来てね」と大喜びでした。願海寺・野々上地区の獅子舞保存会の皆さんからも「来年もまた来たいわ!」「楽しかったわ!」とのお声をいただき、地域の方と交流をもつよい機会となりました。

